



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 40

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 40. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 40: 35-38

ISSUE DATE:

1956-01-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186835>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 40

謹賀新年

1955. 12月(1月5日)

録 事

今月をもって、昭和30年を行等の災害もなく滞りなく終えることができたのは、順調な年であつたことと相まって、各位の御指導と御協力の賜物であることと感謝すると共に、先づ新玉の年のよき幸を祈るものである。

20日、宮地会長は3月の委員会出席以来、久しぶりに来白し、懸念の各種問題や来年度の計画につき現地側実験所員と協議した。その結果、昭和31年度は現奨学金給与者原田英司君として2年間研究を継続させることに決し、新規には募集しないことになった。

また、水族館道路の使用に因り、かねてより番所山植物園と芝田・稚賀^雨氏との間でいざこざがあつたが、今回宮地会長の来白と機会に、宮地会長及び内海委員の斡旋によつて、円満なる解決をみた。26日午後、内海・榎本・芝田・稚賀4氏の間で、別紙2の如き覚書が取交され、今後このことにつき問題が生じた場合には必ず4者の間で話合うこととなつた。

その要旨は28日、関係各業者及び官庁に通達された。同時に実験所正門川に標示板を設置すると共に、観光客の自ざわりともなつた水族館道の障子物は撤去された。明年早々には、別に水族館・博物館・植物園の入口標示する鉄製のアーチを設ける計画である。

時岡委員の渡米は1月下旬に延びたので、21日忘年会と兼ね、実験所及び水族館の取組相より、来白中の宮地所長と交え、川久で送別会を催した。

南和々委員の養父南常三郎老(元白浜所長)は去る26日73才をて死去された。本会として心からなる哀悼の意を表する。

今般白浜及び当水族館の宣伝の働きを^もすると思われり下記写真入りの冊子が発行された。

白浜 (岩波写真文庫 171) B6判 64頁 100円 岩波書店発行

白浜はわ子達の自然教室 10頁 無料 白浜湯崎温泉旅館協同組合発行
尚、「附属博物館の改築案とその運営について」(時岡委員執筆)と題す一事が日本博物館協会発行の「博物館研究」28巻11号に発表された一讀をそう。

業 務 概 況

◎ 12月の入場者数

区 分	水族館 発売数		明光バス 発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	2483	53637	6582	106287	9065	159924
小 人	116	4256	58	2364	174	6620
団 休	3386	78645	—	—	3386	78645
合 計	5985	136538	6640	108651	12625	245189
無入場者	京阪神戦災孤児他				132	1549

◎ 12月の事業収入

(累 計)

観覧券売上金	233,057	4,435,294
魚類拂下	50	5,670
諸 収 入	—	870
11月よりの繰越し	1,046,741	
計	1,279,848	4,441,834

◎ 12月の支出

水族館 経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	119,523	584,856	
合計	—	440	
備品費	1,550	1,50,960	主布
消耗費	21,465	93,724	
事業費	33,464	358,679	
維持費	21,530	158,625	
其他諸経費	2,090	200,114	
積立金	40,873	757,492	
合 計	240,495	2,304,890	

実験所 経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	93,000	
運営費	5,000	30,000	
備品費	596,855	660,015	日立式分米電圧計装置
消耗費	—	14,500	
刊行費	—	329,576	
役務費	29,445	107,055	板垣修理
合 計	631,300	1,234,146	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	10,120	46,880	
消耗費	—	9,393	
備品費	—	12,320	
合計	10,120	68,593	

臨時部

項目	金額	累計	備考
県道舗装工事費増金十万円の中	50,000	50,000	
合計	50,000	568,705	

支出合計

		(累計)
水族館経費	240,495	2,304,890
実験所経費	631,300	1,234,146
博物館経費	10,120	68,593
臨時部	50,000	568,705
計	931,915	4,176,334
12月末現在高	347,933	
支出累計	4,176,334	

◎前年度との比較

	1954	1955	増減
入場者数	9463	12625	+ 3162
売上金	181,227	233,057	+ 51,830
支出金	336,881	931,915	+ 595,034

水族館記事

- ◎ No.22 海亀水槽の危険防止用の金網は海水で腐蝕甚しく大孔があいた
ので、木柵に改めた。
- ◎ 13日水温低下に伴ない、No.22 及 u"28 の水槽に保温のヒーターを取
付けた。
- ◎ 6日、15日に1匹以上の巨大なハモが1匹宛入ったが、その中1匹は16日
に死亡した。
- ◎ 先月27日に入手した同様の巨大なアサゴ1匹は、正月を待たないで31日
死亡した。
- ◎ 8日ごろよりツボ網により、チカメキントキ、ドチサメ、アカエイ、ガンギエイ

- アイゴ、マツカサウオ等が相次いで入り、水槽内は賑やかとなった。
- ◎ 23日、堺の漁師が潮岬沖で採れたという珍しく変ったウツボ 8匹を持ってきた。その中の1匹はヘリシロウツボであつたが、他の7匹は口中黄色く、体の後半はチョコレート色に眼径大の白斑の散在する、比較的柔和であるが、普通のウツボより体高高く、恫猛な感じのするものである。早速調べてみたが、日本近海既知のどの種にも当らない。高知大学の蒲原教授に教を乞うたところ、ハワイを原産地とする Gymnothorax xanthostomus Snyder であらうとの由。その学名の意をとつて キアチウツボ の新名を与えたい。これは元旦にふさわしい珍しい贈り物となるであらう。

資 料

◎ 12月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (24)	8	7	9
気 温 (℃)	$\frac{11.3 - 14.3}{12.6}$	$\frac{9.7 - 14.5}{12.2}$	$\frac{10.0 - 14.6}{12.0}$
水 温 (℃)	$\frac{15.6 - 17.5}{16.7}$	$\frac{14.5 - 17.0}{16.1}$	$\frac{14.5 - 16.8}{15.5}$
比 重	$\frac{25.0 - 25.8}{25.3}$	$\frac{25.0 - 26.0}{25.4}$	$\frac{25.0 - 26.1}{25.5}$

但し { 気温は南水槽室
水温 } は No. 25 水槽で 10 時に測定
比重 }

来 訪 録

12月26～30日 山本広昭氏(大津高校教官、京大動物学科員外研究生)夫妻は冬期における魚類の社会構造の研究のため来館。No. 15 水槽を貸与、ニザダイ、カワハギ、イサギ等を観察資料として提供した。

昭和31年1月5日 発行 (No. 40)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和歌山縣・白浜町
瀬戸臨海実験所内

(電話 白浜温泉 515)